



みなさまと共に30年

# 地球の木

♥ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

## CONTENTS

- ごあいさつ..... 1
- 設立30周年記念 座談会..... 2~5
- 海外支援と国内活動~この10年を振り返る..... 6~7
- 地球の木30年の歩み..... 8~10
- 地球の木自立支援プログラム変遷..... 11
- お祝いメッセージをいただきました..... 12



### つながりを力に

理事長 磯野 昌子

2021年7月に、地球の木は設立30年を迎えました。設立時の1991年は、湾岸戦争、ソ連邦の崩壊、アパルトヘイトの終結と、“統合と分断”が進む激動の年でした。30年後の今も、ミャンマーやアフガニスタンで多くの市民が戦火の犠牲となり、国内外でヘイトクライムが後を絶ちません。昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大は世界中で弱い立場にある人々をさらに苦しめています。「地球上のすべての人たちと共に生きたい」と願い、その幸せのために活動してきた地球の木が、30年でできたことは僅かかもしれませんが、国境や文化の違いを越えて、数えきれない多くの人々とのつながりが生まれました。これからも手を取り合って前へ進んでいきましょう。

30周年  
特集号

# 地球の木が挑戦してきたこと、そしてこれから

日 時: 2021年7月29日(木) 14時~16時半  
 会 場: オルタナティブ生活館・会議室(横浜市港北区)  
 話し手: 横川芳江(第2代理事長・現顧問、登山愛好家)  
 丸谷士都子(第3代理事長・現顧問、英語教室  
 主宰)  
 聞き役: 磯野昌子(第5代理事長)

地球の木設立30周年にあたり、これまで長きにわたり地球の木を支えてきた横川さんと丸谷さんを迎えて、世界情勢が大きく変動したこの30年を振り返りつつ、ご自身や地球の木に集う人々がどのような課題にチャレンジしてきたのかをお聞きし、これからの地球の木は何を目指していくべきなのかを語り合いました。

## 地球の木との出会い

磯野: 今日暑い中お集りいただきありがとうございます。コロナ禍のために公共施設の使用が難しく、ようやくオルタ館を予約できましたが、地球の木を振り返るにはもっともふさわしい場所とも言えますね。事務所がオルタ館から今の関内に移転したのは、丸谷さんが理事長になられてからですか？



丸谷: 移転したのが2002年9月で、私は翌年の2003年から2017年まで理事長を務めました。

横川: 私は1992年から2002年までずっとオルタ館でした

### 解説 & More

#### 1) グローバル市民基金「地球の木」の誕生から

「一食カンパ運動」の募金活動をきっかけに、生活クラブ生協の運動グループとして「グローバル市民基金 地球の木」が産声をあげたのは、1991年7月でした。当初の会員数は約1,000人。その目的は、日本と歴史的にも経済的にも深いつながりのあるアジアの国々について日本の市民がより理解を深め、不公正な世界の仕組みを見直し、生活から変えていくことでした。生活クラブの支部活動に準じて「ランチ(地域の活動単位)」が作られました。これは他のNGOと大きく異なり、足元からの国際協力を行う地盤となりました。



2016年「ボランティア活動奨励賞」を受賞

設立総会には、長洲一二期知事(1975~1995年在任)が応援に駆けつけ、互いを認めあう共生こそが生きるための最良の道であること、また日本のODA

ので、とても懐かしい場所です。今もほとんど変わっていませんね。

磯野: お二人が地球の木に関わったきっかけは何だったのでしょうか？

横川: 1980年代半ばに起こったアフリカの飢餓を象徴する「鷺がガリガリに痩せた子どもを狙っている」写真は衝撃的でした。何とかしたいと生活クラブ生協神奈川(以下、生活クラブ)の組合員として「一食カンパ運動」に携わりました。その後、一時的ではなく恒常的に資金を運用しながら活動を続けられるようにと考えて「グローバル市民基金地球の木」(1)を皆で立ち上げました。当初はまだ国際協力NGOは少なく、JVC神奈川と草の根援助運動の北沢洋子さんらのご指導をうけながら、勉強会を開き、ラオスやカンボジアで活動しました。1992年、PKO自衛隊派遣に対し、市民による支援活動の方策を探るための「カンボジア市民調査団」(2)に地球の木会員の多くが参加しましたが、カンボジアで普通に暮らす人々との交流を行うことで、国境を越えた市民同士の連帯を築くことの大切さを実感しました。



丸谷: 私もきっかけはカンボジアでした。学生時代に国際会議のアルバイトをしていた中でカンボジアの人と出会い、欧米人とは違った文化背景のアジアの人々に親しみを感じました。地元東戸塚デポーの祭りを通して、生活ク



に対し、市民による地域発の国際協力の必要性を述べられました。

1999年、それまでの活動を元に、社会的信頼を得て一層の充実を図ろうと「特定非営利活動法人地球の木」として新たな歩みを始めました。更に2010年7月には「認定NPO法人」認証を取得しました。税制上の優遇措置があるこの認定を受けるには、広く市民から支持されていること、運営組織及び事業活動が適正であること、情報公開を適切に行っていることなどの厳選な審査をクリアしなければなりません。

#### 2) カンボジア市民調査団

1992年、カンボジアにおける国連のPKO(平和維持活動)に自衛隊が派遣されました。自衛隊の海外派遣は戦後日本の大きな転換点となりましたが、地球の木会員の提案により、生活クラブは「カンボジア市民調査団」を結成しました。同年10月派遣の第1次メンバーは全員が地球の木会員でした。帰国後は「軍隊でなく農村支援」を掲げ、各地域を回り報告会をしてカンボジアの現状を訴えました。

ブがアジアの支援をしていると知り、1991年に地球の木に入会しました。その後、地球の木のネパール支援に寄付をしたら、以前から英語教育の場で知り合いだった、会員の乳井さんから電話がかかってきて、ネパールからの英語の手紙を翻訳しました。すると、以前にデポーを案内したネパールの女性ニルマラさんを通して始まったプログラムを支援していることが分かり、次第に地球の木のネパール支援活動に携わるようになりました。

## 活動の中で特に印象に残っていること

**磯野:**横川さんは10年間、丸谷さんは14年間、理事長を務められましたが、その中で特に印象に残っていることは何でしょうか？

**横川:**設立5周年記念事業として、劇団「風の子」による「**ぼくたちの南十字星**」(☞3)を上演したことです。南北問題について、知識や言葉だけでは伝わらないことを観劇によって心を動かすことができる素晴らしい作品であり、地球の木で上演したいと思いました。ですが、公演には桁違いのお金がかかり、数百人の客を集めなければならず、とにかくチケットを売り歩きました。空席の会場に自分一人という夢を見るほどでしたが、当日は多くのお客さんを迎え素晴らしいイベントとなりました。

**磯野:**地球の木は当初から、南と北との関係、開発途上国の問題と私たちの生活とのつながりを重視し、それを多くの人に伝えることを大切にしていたんですね。

**丸谷:**私が印象に残っているのは、1998年に初めてネパールの村に行った時のことです。アジアの国に行ったのもそ

れが初めてでした。当時支援していたネパール極西部カイラリ郡のタルー族の村で、夜の真っ暗闇の中、女性たちが識字教室のために集まって熱心に学んでいる様



ネパール識字教育の紙芝居から

子を見て感動しました。また、焚き付け用の大きな木の枝を担いだ女性たちが目の前を通ったり、タルー族の人々が親の借金により「農奴」になっていることを聞いたりして、現代にこのような世界があることを知って驚きました。

**磯野:**丸谷さんがネパールの活動に引き込まれて行ったのはそういう始まりがあったからなんですね。他にも印象に残っていることはありますか？

**横川:**現地との交流という点では、フィリピンへの**青少年スタディツアー**(☞4)を7回行ったことは印象深いです。高校生や大学生が現地の人々と交流しながら、自分たちが気づいたことを演劇にして表すワークショップを現地NGOと共に行いました。帰国した生徒がフィリピンでの体験を学校で発表したいと言ったのですが、当時は欧米志向が強くフィリピンだからと発表させてもらえなかったこともありました。

**丸谷:**私も地球の木の活動で、フィリピン、ネパール、ラオス、カンボジアに行き、そこに暮らす人たちと直に触れ合ったことが一番印象に残っています。フィリピンへは**オリジナル教材「マジカルバナナ**」(☞5)のリニューアルの取材でネグロス島を訪れました。バナナ農家で「マジカルバナナ」のカードゲームを紹介。とても喜んでもらえました。

### ☞3) 設立5周年記念事業

1997年1月劇団「風の子」による「僕たちの南十字星」を上演しました。県や横浜市、川崎市の国際交流協会などの後援も受け、500人の幅広い世代の観客は、物語の展開と歌や踊りに一緒に冒険したような気分を味わいながら、アジアと私たちとの関りを真剣に考えるよい機会となりました。この時の経験は「必死で動けば道は開かれる」というチャレンジ精神につながり、その後の大きな活動の基となりました。

### ☞4) 地球の木・スタディツアー

海外支援活動の一翼を担うスタディツアー。1980年代からNGO団体が手掛け、今はプログラムの形態や目的が多様化しています。

地球の木が初めて実施したのは1994年。会の発足から僅か3年後。対



2017年ネパールスタディツアー

象国はフィリピン。首都のマニラのスラム街や、ネグロス島のバナナ村などを訪問しました。翌年には高校生や大学生が参加したフィリピン青少年スタディツアーを行い、2002年まで計7回実施されました。また、1996年にはカンボジアへのスタディツアーを行いました。支援地の村を訪れ、1週間にわたって交流しました。1999年にはネパールのスタディツアーが加わりました。2006年にはラオスの森林保全や自然農業の見学、村の人たちとの交流などが実施されました。

ネパールスタディツアーについては、支援地の農村地帯を中心に訪れ、コロナ禍でこの2年間は中断しているものの、これまでに通算13回、のべ67人。参加者は10代から70代まで。高校・大学生、教員、主婦らとさまざま。ツアー後には報告書作成と発表会があります。その感想を抜粋すると、「日本人が忘れてしまった人間本来の生き方を切実に思い知らされた気がします」(会社員)、「これからも自分で体験する事を大切にしていきたい」(大学生)、「人生観が変わった」(元会社員)など。国境や文化の違いを超えた出会いや喜びとともに、そこで感じ、考えた経験はそれぞれの大きな財産となっています。

ラオスの村の女性たちとは、車座になってタマリンドの実をおきながら、「幸せとは何か」を語り合ったり、カンボジアではチャイルドケアセンターの子どもたちと遊んだりしました。ポルポトの圧政で、子どもたちに文化や経験を継承するべき世代がごっそり抜けていることが重大であることを知りました。

ネパールのマンガルタル村でのスタディツアーでワークショップをしたとき、「みなさんは私たちのためにチヂミを焼いて資金を集めているのに、私たちは何もしていない！」と言った女性がいました。後に野菜の組合を作ったり、ヤギの飼育をしたりした、とても前向きでパワフルな女性たちでした。直接触れ合うことで、「貧しい」と思われている人々の豊かな家族関係や人間性を知ることができました。

## 難しかったこと

**磯野:**長年の取り組みの中で苦労されたことも多いと思いますが、特に大変だったことは何でしょうか？

**横川:**それは何といっても、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)への支援で理事会が二分したことです。1997年に北朝鮮で食糧危機が起こり、支援をするかしないかで意見が割れました。私は、隣りの国なのになぜ支援ができないのか、NGOだからこそ支援ができるのであり、今やらなければできないと、最終的には強引に支援を決めてしまいましたが、それがきっかけで地球の木を離れた人もいました。

**丸谷:**私も理事会運営には苦労しました。自分がやりたいと思ったことをなかなか理解してもらえなかったり、理事長という立場で発言すると、予想外に自分の言葉が相手に

重く響いてしまったりしたこともありましたが、それでも、地球の木では一人ひとりが自分の意見を言い、何でも話し合って決めてくれたと思います。

**横川:**北朝鮮に支援のための調査に行った時、人々は「市民」という概念を理解できず、市民活動って何？と聞かれたりもしました。この時、「北朝鮮子ども救援キャンペーン」(後のKOREA子どもキャンペーン)が誕生し、地球の木も設立メンバーとなりました。さらに、2001年からは「**南北コリアと日本のともだち展**」(図6)を開催してきました。北朝鮮と韓国と日本の子どもたちに同じテーマで絵を描いてもらい、絵画展を通して交流を続けました。初めは、北朝鮮の子どもの絵は画一的だったり、兵器で攻撃しているような絵もありましたが、交流を続けるうちに絵が変わってきました。ともだち展では、日本にある朝鮮学校の子どもたちともつながることができました。

**丸谷:**私は地球の木の代表として、神奈川の朝鮮学校と多文化共生を考えるネットワーク「ビビンバネット」の立ち上げに関わり、学校見学や学習会などを開催しました。個人的には、朝鮮学校の新1年生にエールを送る「入学おめでとう応援隊」にも毎年参加しています。これらの活動は、反対する人もいたので、なかなかみんなを巻き込んで行うことができませんでした。

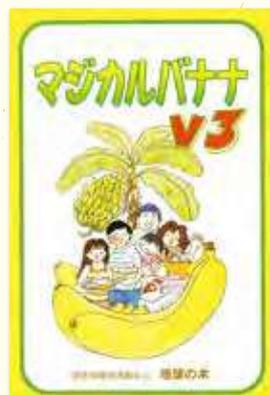
**横川:**2001年に始まった「あーすフェスタ」もありますね。「あーすフェスタ」は県が仲介して在日の南北コリアンや華僑の人たちが同じ席に座り、一緒にイベントの企画をしていきました。これは「神奈川方式」と呼ばれ、全国に先駆けた取り組みであり、時代を変えました。

## 解説 & More

### 図5 「マジカルバナナ」の教材

NGO初の教材「マジカルバナナ」がデビューしてから22年。参加型ワークショップ用に作った地球の木オリジナル教材です。楽しい「バナナクイズ」やミニお芝居に興じるうちに、参加者は1本のバナナの裏側にある、生産者の厳しい暮らしや健康被害などを疑似体験します。私たちの快適な暮らしが、南の国々に暮らす人々の搾取の上に成り立っていることを知り、衝撃を受けます。

身近にあるバナナを通して、私たちの「買う」、「食べる」という行動が、世界のどんな所に、どのように影響しているのかに気付き、視点は生産者と私たち消費者が共に支え合う、もう一つの貿易「フェアトレード」に広がります。



2010年改定版

「このワークショップをきっかけに子供たちが『安い』ことがどうか、食べ物を作っている人はどこにいて、どんな生活を送り、どんなことを願っているのか、少しでも考えることができる人になってほしいと思います」という感想を小学校の先生からいただいています。

### 図6 「南北コリアと日本のともだち展」

1997年、大議論を経て、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の洪水被害を支援する「KOREA 水害・支援キャンペーン」に参加しました。現地に行き、「敵の国の日本から来てくれた、苦しい時の支援は有難いものだ」という人々の言葉を聞き、私たちは活動の意義を感じ取ることができました。現地調査や学校訪問などを重ねて交流が進んだことから、子どもたちの描いた絵を持ち帰ることができるようになり、国内の支援ネットワークとともに絵画展を開催することができました。その後、韓国NGOとの連携が進んで「南北コリアと日本のともだち展」へと発展、今年20周年を迎えました。この活動は日本

**丸谷:**他には、ネパールのスタディツアーも大変でした。ツアーのためにチラシを作り、旅行社とやりとりし、現地の病院なども調べなければなりません。何より人の命を預かっているというプレッシャーがありました。それでもスタディツアーのインパクトは大きく、多くの日本の若者を育てることができました。私は27回ネパールに行き、その内13回はスタディツアーの引率で行きました。25回目のネパール訪問時にはネパールのニルマラさんたちがみんなでお祝いしてくれました。

## これからの地球の木に求められること

**磯野:**最後に、これからの地球の木やそこに集う私たちは何をめざすべきか、今の地球の木の課題についてもアドバイスをいただくと嬉しいです。

**横川:**コロナ禍もあり、スタディツアーに行けない中で、どうやって現地の人とつながれるのかを考えていく必要があると思います。地球の木は「マジカルバナナ」の教材<sup>⑤</sup>を作成しましたが、バナナを取り巻く構造的な問題は変わっていません。Zoomで現地とつながることができる時代なので、現地の若者に日本人に見せたい動画を作成してもらったりするのも面白いと思います。また、地球上の人々が共通認識している課題(例えば、気候変動、経済格差、ジェンダー等)について、共に考え、解決のために行動していくことが大事です。

**丸谷:**ラジャバスでお祭りがあった時、ケータリングのランチにプラスチックの皿が使われていたことに驚きました。もしかしたら村に水がなくて食器を洗えない、といった事情があったのかもしれませんが、プラスチックの

国内、特に「多文化共生」を掲げる神奈川県では在日コリアンとの連携を強めることとなり、他の外国籍の人たちとも交流を進めることになりました。

### ⑦) SDGsと地球の木

SDGs(Sustainable Development Goals)とは「持続可能な開発目標」で、2015年9月に国連の加盟国全会一致で採択されました。17の大きな目標(ゴール)と具体的な



地球の木講座2020(講師:大橋正明さん)  
「SDGs時代とコロナ禍の国際協力とは?」

な169の手段(ターゲット)からなっていて、達成期限は2030年。誰ひとり取り残さないことを目指し、先進国と途上国が一丸となって、気候変動をはじめとする地球環境の危機や貧困、人権、平和など多岐にわたる世界の課

問題も共通の課題として考えていきたいです。SDGs<sup>⑦</sup>は世界中で共通の「持続可能な開発目標」であり、若者たちを動かす力になっていますね。また、入国管理局でウイシュマさんが亡くなった事件<sup>※</sup>がありましたが、外国人労働者が抱えている問題を解決し、地域の人たちの外国人を見る目を変えて多文化共生<sup>⑧</sup>を実現したいです。

**横川:**これからはやはり「食と農」が大事だと思います。来るべき食糧危機に備えて、飲み水を確保し、自給自足を推進していくべきではないでしょうか。そうした地域への「国内スタディツアー」もよいと思います。また、市民団体として、コロナ禍の陰に隠されている問題はないかウォッチしていく必要もありますね。

**磯野:**横川さん、丸谷さん、この度は貴重なお話をありがとうございました。地球の木が大切にしてきたのは、南国と私たちはつながっていること、私たちの生活の裏側で構造的に貧困が起きていることを伝えることであり、その構造を変えるために、今日、地球上の共通の課題として共に取り組んでいくことが求められているのだとあらためて認識しました。本日はどうもありがとうございました。

※2021年3月、スリランカ人女性のウイシュマ・サンダマリさんが名古屋出入国管理局で収容中に病死。当時33歳。支持者、弁護団は「人権意識の欠如。医療ケアのあり方を含めた抜本的な制度改革が必要」と訴えた。



左から、丸谷さん、横川さん、磯野さん

題を解決するものです。

「途上国を支援するだけでなく、先進国の人たちも自らの暮らしを足元から見直し、課題に取り組もう」というSDGsの理念は、地球の木が設立以来活動の目標にしてきたことでもあります。

「食と農業」については、ゴール2「飢餓をゼロに」の中のターゲットで、持続可能な農業の実践が掲げられています。

### ⑧) 新たな課題—「多文化共生」

この30年で日本国内にも多くの外国人が居住するようになりましたが、制度の整備が追いつかず、各地で人権を侵害する事例が見られます。ジェンダーの多様性も含めて、多文化共生の地域社会を具体的にどう築いていけるかも、私たちの課題です。

2020年度、「多文化共生の地域づくり」に取り組む準備会を発足させ、活動を開始しました。まずは、日本に住む外国籍の人から話を聞くことや、実際に多文化をテーマに活動をしているグループに学ぶセミナーなどを開催しています。

# 海外支援と国内活動～この10年を振り返る～

## ネパール～逆境を乗り越えて～

マンガルトール村唯一の高校を拠点に始めた「幸せ分かち合いムーブメント」の歩みを振り返ると、まさに激動の10年でした。村の家屋の9割が損壊した2回にわたる大地震、マオイスト過激派によるパートナーNGO・SAGUNへの脅迫事件、豪雨による洪水、コロナ禍、と災難が続きました。そんな中でもSAGUNのモットーである「開発は初めの一步から住民主体で」という姿勢は揺らぐことなく、常に村人たちとの話し合いを大切にしつつ難局を乗り越えてきました。

村の人々もピンチをチャンスに変える強さを持っていました。2015年の地震の後、復興に必要な収入を得るためヤギの飼育プログラムが始まりました。参加した貧困世帯の女性たちは、ヤギを増やして子どもたちの教育費や家族の服、お米を買うことができるようになり、経済力をつけた女性たちの地位が上がりました。

水害も、禍転じて福となすで、人々を奮起させる引き金になりました。500人を超える村人たちが結集して「農民会議」(=写真=)を開催。この自発的な行動が地方政府を動かし、有機農業の推進など独自の商業的農業の道が拓けたのです。

「幸せ分かち合いムーブメント」を始めた2007年から実施してきた奨学生支援は、100名以上の高校生達に夢を与えました。大学や大学院まで進学した人、憧れの職業に就くことができた人、村の学校の先生になった人、NGOスタッフになって村に貢献する人など多くの卒業生が自ら歩む道を選択する自由を手に入れました。皆、口々に「奨学金制度がなかったら高校に進むことはできなかった」と言います。元奨学生たちが積極的にイベントに協力し、「幸せ分かち合いムーブメント」を地域に広める媒体となってくれたことも大きな成果だと思えます。



## ラオス～自分たちの暮らしとの関わりを考える～

2009年から始まったJVCのラオス、サワンナケート県のプロジェクトが掲げる目標は「地域住民が土地を含む地域の自然資源を、主体性をもって管理・利用できるようになる」です。JVCは村人と共に村内を歩き、GPSを使って村の範囲や河川や森林の状況を衛星写真で地図化し、正式に行政に登録。村人が自分たちの村について、外部者にも

客観的な説明ができるようになり、不当な土地の収用は事前に防げるようになりました。地域で森林保全を担う行政官や村人の育成を目的に、森林に関する権利と法律の研修を行い、また地域に魚保護区や共有林を設置したことは、村人達の自然資源管理に対する意識向上に役立ちました。その他、安全な水と食料の確保のため、井戸掘削や稲作改良、コメ銀行や家畜銀行などの仕組みづくりも支援してきました。

地球の木は、現地での活動に直接関わるわけではありませんが、設立当初から、「開発」から取り残された途上国の課題を私たちの暮らしと結び付けて考えるということを行ってき

ました。支援地の村では、豊かだった森がパラゴムやユーカリのプランテーションに代わってしまい、自然資源に頼る村の



人々の暮らしを脅かしています。先進国の豊かで便利な暮らしの陰で、森林削減が加速的に進み、世界中で異常気象を引き起こしています。その観点からもこのラオスの森林保全の問題は、自分たちの暮らしとの関わりを知り考えるという大切な意味があります。

この10年間に行ってきたラオス関連の主な国内活動は以下のようなものです。

- ・よこはま国際フェスタ、フォーラムにラオス展示やワークショップで参加。
- ・ラオスワークショップ「森を守る・暮らしを守る」「ラオスってどんな国?」「ちよっぴり体験!ラオスの村のくらし」などを、学校や市民グループに出前講座を実施。
- ・日本の森(里山)のフィールドワーク(相模原・鎌倉・瀬上の森、新治市民の森など)。

## カンボジア～女性たちに寄り添う～

2007年から始まったタケオ州にある職業訓練センター支援は、7年間継続。貧困ゆえに売られたり働かされたりする少女たちが、織、染、裁縫の技術を身につけ自立できるよう支援しました。織物に詳しい地球の木のメンバーが行き来し助言、「売れるもの」が作れるよう共に力を合わせました。そして、少女たちが作り上げたシルクスカーフを生活クラブ生協、福祉クラブ生協の共同購入やデポー販売につなげ、また彼女たちを取り巻くカンボジアの実情を伝えることにも役立てました。少女たちの自立で職業訓練センターでの事業を終了(=写真=)。2012年からは織物の村「ア

ン村」で、農村の課題を考えながら、環境にやさしい自然染料を使った伝統的織物生産を支援しました。

2014年からは、レイプや家庭内暴力、人身売買などの被害にあった少



女や女性たちの支援を始めました。現地パートナーのCWCC(カンボジア女性緊急救済センター)はカンボジアで初めての女性シェルター(国内に4カ所)で、1997年の設立以来、被害者が立ち直り自立できるよう様々なサポートをしています。被害女性や子どもに対する法的サポート、身体的、精神的治療。識字教育や職業訓練など。自立後のアフターケア、また男性への教育プログラムも持っています。地球の木はシェルター訪問を重ねつつ、CWCCとの信頼関係を築いてきました。被害者たちの話を聞き、センターを出て自立したサバイバーを訪ね、折れない心で生き、立ち直るカンボジアの女性たちの姿をしっかりと見つめながら支援をしています。

近年、アジアを始め世界の国々の民主化が後退しているようなニュースばかりが続きます。一党独裁で強権政治が続くカンボジアも同様です。同じアジアに生きる者として、カンボジアの女性たちの置かれている現況を知り、寄りそう支援が一層大事に思われます。

## 気仙沼(東日本大震災支援)

2011年、大震災の直後、緊急理事会を開き支援を決定。募金の呼びかけに多くの会員から続々と支援金が寄せられました。日々変わっていく現地の状況に応じた支援が求められました。まず東北拠点の国際ボランティアセンター山形に協力することを決め、避難所への緊急物資、食料を届けました。また同センターが実施したCash For Workを視察して、そこで気仙沼の若者たちと知り合い、協力して計5回約1,150食の炊き出しを行いました。



次の段階として、仮設住宅に移った被災者のケアが必要となります。遠く離れた地球の木だからできる事を進めました。反対に地元でなければならない

役目を担ったのが、気仙沼の若者でした。彼らは震災の翌年NPO法人Tree Seedを立ち上げました。地球の木は、自分たちの地元を何とかしたいと、自ら被災しながらも仮設住宅に赴き、生活必需品を販売、そこに暮らす人たちを見守る活動をする彼らの相談に乗り、助言を行ってきました。2015年からは、復興住宅に移った人たちのために新しいまちづくりを提案したり、体力が低下した子どもたちのためにスポーツ教室を開催したりと、次々課題を見つけて活動しています。

支援金を辞退して、地球の木と対等な関係で一緒にできることを模索していきたいというTree Seed。彼らの頑張りにかえて勇気もらった10年でした。震災の2年後から始まった東日本復興支援まつり(=写真=)には、共に毎年参加しています。お互いに忘れることなく、よい関係を続けられたらと思います。

## 地球市民活動～学び、考え、活動する～

海外支援のプログラムと並んで大切な国内活動、「地球市民教育」も引き続き活発に行われました。毎年開かれる「地球の木講座」では、様々な活動をされている方や専門家を講師に招き、世界や日本の現状を知り、国際協力や多文化共生のあり方を考える機会となっています。その他支援に関連した学習会なども開かれ一緒に学び考える機会を広げています。「出前講座」も丁寧に行われてきました。ファシリテーターたちが十分に内容を検討しながら行っている講座は良い評価を受けています。毎年依頼される学校の他に最近では、東京都のオリンピック・パラリンピック教育推進支援事業の一環として、都内の数校の小中学校から招かれ、「マジカルバナナ」などの講座を行いました。

また、「あーすフェスタ」「鎌倉国際交流フェスティバル」「よこはま国際フェスティバル」などや、地域の様々なイベントにも積極的に参加してきました。それらのイベントや生活クラブ生協のデポー(店舗)などでは、地球の木オリジナルのフェアトレードグッズも含めた数々のクラフトの販売を行い、地球の木の紹介をしています。そこではボランティアの方々にも大いに助けられました。

資金作りでは、毎年「もったいないキャンペーン」を行い、書き損じはがきや切手、貴金属など多くの物品寄付を集めることができています。また年末募金への協力や企業、個人による寄付など、多くの人に支えられてきました。

2020年の新型コロナウイルス感染拡大の始まりにより、地球の木の活動も変化せざるを得なくなりました。地域のイベントやお祭りは中止やオンラインでの開催になり、地球の木もほとんどがリモートとなりました。しばらくは「ウィズコロナ」での工夫された活動が続くことになりそうです。

# 地球の木30年の歩み

年・月	主な活動	世界の動き・日本の動き
<b>1991年</b>		
7月	・グローバル市民基金地球の木設立総会 (フィリピンIIDのオダリー・ガルシアさんを招く)	1月・湾岸戦争始まる 4月・ベルシヤ湾へ機雷除去のため自衛隊派遣 6月・南アフリカ アパルトヘイト終結宣言 12月・ソビエト連邦崩壊
10月	・「IMF・世銀合同総会批判!NGO会議」傍聴などのためタイ訪問	
11月	・支援地現地調査に初めて参加(ラオス・JVCプロジェクト)	
12月	・地球の木カレンダー販売開始	
<b>1992年</b>		
2月	・フィリピン・マニラのスラムなど視察に参加「タタロンと日本の子どもの絵」巡回展実施(1997年まで)	6月・ブラジル国連環境会議「地球サミット」開催 9月・カンボジア国連平和維持活動(PKO)に自衛隊派遣
6~9月	・連続講座「第三世界の現状理解」開催 講師:村井吉敬、鷲見一夫、北沢洋子、松井やより	
10月	・「第1次カンボジア市民調査団」に参加、35ヵ所で報告会	カンボジア市民調査団 
11月	・フィリピン・ネグロス島救援復興センターのマリサ・オリエナさんと交流・学習会	
<b>1993年</b>		
3月	・オーストラリア熱帯雨林情報センターのアンニャ・ライトさん(環境活動家)との交流・学習会6地域で開催	7月・カンボジア暫定政権発足
6月	・カンボジア「NGOパネルディスカッション」にパネリストとして参加	11月・日本コメ凶作、タイ米など緊急輸入
10月	・日比谷公園「国際協力フェスティバル」初参加	
11~12月	・連続講座「第三世界の現状理解」開催 講師:村井吉敬、田中優、武藤一羊	
<b>1994年</b>		
3月	・初の独自のスタディツアー実施(マニラのスラム、ネグロス島のバナナ村など)	4月・ルワンダ内戦で大虐殺、難民200万人発生 5月・南アフリカ共和国マンデラ大統領就任
7月	・ネパールのニルマラK. C. さん(ジェンダー活動家)を囲み交流会	
11月	・連続講座「地球環境とリサイクル」など3地域で開催 講師:田中優	
<b>1995年</b>		
3月	・第1回フィリピン青少年スタディツアー実施(2002年まで7回)	1月・阪神大震災 3月・オウム真理教による地下鉄サリン事件 7月・米・ベトナム国交正常化 9月・第4回国連世界女性会議、北京で開催
9月	・北京女性会議NGOフォーラムに参加	
12月	・映画「教えられなかった戦争・フィリピン編」3地域で上映	
<b>1996年</b>		
2月	・学習会「ネグロス島で始まった民衆農業創造計画」開催 講師:ジョエル・アラバール	4月・普天間飛行場全面返還で日米合意 8月・新潟県巻町の住民投票で原発建設凍結
7月	・「朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)食糧支援キャンペーン」に参加	
11月	・アンニャ・ライトさんのコンサート「森の歌・川の歌」開催	
<b>1997年</b>		
1月	・設立5周年記念 劇団「風の子」による「ぼくたちの南十字星」上演	7月・北朝鮮食糧危機 ・香港、中国へ返還
2月	・ネパール極西部の識字教室支援始める	12月・地球温暖化防止京都会議 ・対人地雷全面禁止条約121ヵ国署名
2~3月	・連続講座「地球環境」4地域で開催 講師:田中優、柴田久史、ペン・セタリン	
4月	・北京女性会議で出会ったタイのシニット・シテイラックさん(ジェンダー活動家)の案内でタイの住民運動を視察	北朝鮮子ども支援キャンペーン 
6月	・「北朝鮮子ども救援キャンペーン」(のちの「KOREA子どもキャンペーン」)に参加	
11月	・北朝鮮「食糧支援キャンペーン」現地調査	
<b>1998年</b>		
5月	・カンボジア「るしな・こみゆにけーしょん・やほねしあ」チャイルドケアセンター支援始まる	3月・特定非営利活動促進法(NPO法)成立
11月	・「第1期NGOかながわ国際協力会議」に委員として参加(以後5期)	
<b>1999年</b>		
1月	・第1回ネパールスタディツアー実施(2021年まで13回)	9月・JCO東海事業所で国内初の核臨界事故 10月・東ティモール独立承認
3月	・開発教育教材「マジカルバナナ」出版 「途上国債務帳消しキャンペーン」日本実行委員会に参加	
10月	・シニット・シテイラックさんの著書「母のキッチンガーデンから」を翻訳出版	『母のキッチンガーデンから』表紙 
11月	・NPO法人地球の木設立総会開催 ・シニットさんを招きシンポジウム「手をつなぐアジアの女たち」開催 (コーディネーター:谷山浩史、パネリスト:松井やより、牧島佐代子)	
<b>2000年</b>		
3月	・「特定非営利活動法人」格取得 ・「第1回あーすフェスタ」に参加	6月・初の南北朝鮮首脳会談 7月・三宅島噴火で全島民避難

年・月	主な活動	世界の動き・日本の動き
10～11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールSOARSのニルマラK.C.さん、S.K.シユレスタさんを招き「手をつなぐアジアの女たちPart2」開催</li> <li>・ニルマラさん「横浜国際協力まつり」にパネリストとして参加</li> <li>・「地域フォーラム」を3地域で実施</li> </ul>	9月・ミレニアム開発目標 (MDGs) 採択
<b>2001年</b>		
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講座「グローバリゼーション基礎講座」開催 講師：村井吉敬、田中優</li> </ul>	1月・ネパール王宮で銃撃事件(国王夫妻など死亡)
6～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「南北 코리아 と日本のともだち展」始まる</li> </ul>	・インド西部大地震
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インド西部大地震被災地の現地調査参加</li> </ul>	9月・米で同時多発テロ
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立10周年記念シンポジウム「手をつなぐアジアの女たちPart3」開催 講師：レニー・トレンティーノ(「滞日外国人と連帯する会」)</li> <li>・鎌倉女学院高等学校「国際理解講座」に講師派遣始まる</li> </ul>	10月・米・英軍アフガニスタン攻撃
<b>2002年</b>		 <p>10周年シンポジウム</p>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画「神の子たち」を2地域で上映</li> </ul>	4月・イスラエル軍、パレスチナ自治区へ大規模侵攻
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「えっ！ シンプルな暮らしが平和につながるの？」キャンペーン開始</li> <li>・「NGO非戦ネットワーク」「WORLD PEACE NOW」「ピースウォーク in 神奈川」に参加</li> <li>・横浜南区の平楽中学校へ講師派遣始まる</li> <li>・事務所を新横浜のオルタナティブ生活館から現在の関内へ移転</li> </ul>	8月・南アフリカで「持続可能な開発に関する」環境サミット
9月		9月・小泉首相北朝鮮を訪問、金正日総書記と会談
<b>2003年</b>		
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講座「メディアリテラシー」2回開催 講師：小山紳一郎 ほか</li> </ul>	3月・米・英軍イラク攻撃、フセイン政権崩壊
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールのカマル・フヤルさんによる「参加型ワークショップ」開催</li> </ul>	ワークショップで話すカマルさん
9～10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講座「私たちの身近な森と農業」開催</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピン・ネグロス島のアンヘリト・エスタマさんを招き「エスペランサ農園闘争」報告会開催</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『NEWマジカルバナナ』(改訂版) 出版</li> </ul>	
<b>2004年</b>		
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の木情報メールマガジン「Asian Wind」の配信開始</li> </ul>	2月・イラクのPKOに自衛隊派遣
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フジロック・フェスティバル「NGOビレッジ」に参加</li> </ul>	6月・イラク暫定政権発足
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画「アボン・小さな家」を2地域で上映</li> </ul>	12月・スマトラ沖大地震、インド洋大津波発生
<b>2005年</b>		
6・10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国NGO「地球村分かち合い運動」の女性たちと横浜、ソウルで「地球市民教育ワークショップ」開催</li> </ul>	2月・地球温暖化のための京都議定書発効
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピン・ネグロス島のラリー・ギリエマさんを招き、ワークショップ「ネグロスから学ぶ～若者に生きる力を」開催</li> </ul>	10月・パキスタン北部で大地震
<b>2006年</b>		 <p>韓国NGOワークショップ</p>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回ネパールYOUTH交流スタディツアー実施(2007年まで2回)</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国NGO「地球村分かち合い運動」のメンバー5名を招き「日韓地球市民教育交流 in YOKOHAMA」開催</li> <li>・設立15周年記念モニターツアー(フィリピン、ラオス)実施</li> </ul>	
<b>2007年</b>		
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立15周年記念シンポジウム「地球市民はSIMPLE LIFE～暮らしから考える国際協力」開催 講師：大谷ゆみこ</li> </ul>	8月・米、サブプライム問題で世界信用不安
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオス人形劇チェオボン「ほくらの森には…」公演に協力</li> </ul>	 <p>田中優さん講演会</p>
<b>2008年</b>		
1～2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講座「一歩ふみ出そう、私のシンプルライフ」開催 講師：田中優ほか</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールSOARSユースクラブの2人を招き、「日本・ネパールYOUTH交流」を実施</li> </ul>	
9・11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講座「暮らしを支えるエネルギー」開催 「『六ヶ所村ラプソディ』上映&amp;トーク」 講師：牧野美登利 「あなたにも作れる!ソーラーパネル」 講師：桜井薫</li> </ul>	3月・中国のチベット・ラサなどで大暴動
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国NGO「地球村の人々」主催の「日韓地球市民教育交流 in SEOUL」に参加</li> </ul>	5月・中国四川省で大地震
<b>2009年</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパール王政廃止</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講座「暮らしを支えるエネルギー」(ランチ企画) 4地域で開催</li> </ul>	9月・リーマンショックで世界金融不安
4～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオス現地スタッフ、フンパンさんのアジア学院研修を支援</li> </ul>	12月・日比谷公園にて年越し派遣村
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講座で製作したソーラーパネルをネパール支援地に設置</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ「『援助』する前に考えよう」開催 講師：田中治彦</li> </ul>	3月・ラオス初の鉄道開通
<b>2010年</b>		4月・オバマ大統領、ブラハで「核兵器のない世界」を呼びかける
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ラオス森の交流ツアー」実施 絵本作家 田島征三さん参加</li> <li>・講座「未来への投資～こうすれば得する生活術」開催 講師：田中優</li> </ul>	8月・衆院選で民主党圧勝、政権交代
		1月・ハイチで大地震
		3月・タイで反政府派の大規模デモ、バンコク市内占拠

# 地球の木30年の歩み

年・月	主な活動	世界の動き・日本の動き
<b>2010年</b> 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認定NPO法人」格取得</li> <li>・マジカルバナナv3(改訂版)出版</li> </ul>	6月・小惑星探査機「はやぶさ」60億kmの旅を終え帰還
<b>2011年</b> 4月 10月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災被災者支援始める</li> <li>・IVY気仙沼と協力して炊き出し実施(7月まで5回)</li> <li>・設立20周年記念連続講座第1回「ネパールの笛のコンサート&amp;対談「幸せを分かち合う地域づくりーネパール・ラダック・日本」」開催 講師:サルバジット・ラマ、鎌田陽司</li> <li>・設立20周年記念連続講座第2回「いきいきと生きるための経済～『連帯経済』で分かち合う幸せ」開催 講師:内田聖子</li> </ul>	3月・東日本大震災、大津波発生、原発事故で緊急事態宣言 ・米英仏車リビア空爆、カダフィ元最高指導者死亡 10月・世界人口70億人突破
<b>2012年</b> 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立20周年記念連続講座&amp;パーティ</li> <li>・第3回「飯館村から考える地産 地消のエネルギーと原発」開催 講師:浦上健司、大嶋朝香</li> </ul>	5月・北海道電力泊原発が定期検査のため発電を停止。国内50基の原発はすべて稼働停止に 10月・オスプレイ沖縄配備 12月・衆院選自民圧勝政権奪還
<b>2013年</b> 2月 3月 4月 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の木講座「ブータンと日本～本当の幸せって何だろう～」開催 講師:草郷孝好</li> <li>・参加型開発について学ぶワークショップ 講師:カマル・フヤル</li> <li>・JVCラオス現地スタッフによる「ラオス報告会」開催</li> <li>・「第1回東日本大震災・復興支援まつり」参加</li> </ul>	アーサー・ピナードさん 地球の木講座2014 
<b>2014年</b> 1月 7月 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の木講座「せいかつゴクッン！」開催 講師:アーサー・ピナード</li> <li>・カンボジアCWCC(カンボジア女性救済センター)支援開始</li> <li>・気仙沼訪問交流ツアー</li> </ul>	6月・過激派組織IS国家樹立を宣言 12月・衆院選、自公が2/3獲得 ・はやぶさ2打ち上げ成功
<b>2015年</b> 1月 2月 5月 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かめのり賞」を受賞</li> <li>・地球の木講座「日本語を取り戻す」開催 講師:アーサー・ピナード</li> <li>・ネパール大地震被災者支援を開始</li> <li>・SAGUN副代表エソダさん招聘、講演、ワークショップを行う</li> </ul>	4月・ネパール大地震 9月・持続可能な開発目標(SDGs)採択 12月・ミャンマー総選挙でアウン・サン・スー・チー氏の野党圧勝 
<b>2016年</b> 1月 3月 7月 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の木講座「ネパールから見た日本、日本から見たネパール」開催 講師:ジギャン・クマル・タパ</li> <li>・「ボランティア活動奨励賞」を受賞</li> <li>・25周年記念事業 ラオスのお話「ラオス子育て12年」開催 講師:名村雅代</li> <li>・25周年記念事業 地球の木講座「カマルさんが語る震災復興」開催 講師:カマル・フヤル</li> </ul>	2月・TPP署名 4月・熊本地震 6月・オバマ米大統領が広島訪問 8月・リオオリンピックに初の難民選手団参加 12月・高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉決定
<b>2017年</b> 5月 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会「多文化共生社会を目指してー在日カンボジア人の方に聞く」 講師:伊藤裕子、荻原カナナ</li> <li>・都内の小学校でオリパラ教育の出前講座(2019年まで全5回)</li> </ul>	1月・トランプ米大統領が就任 6月・生活保護受給世帯が過去最多
<b>2018年</b> 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の木講座「今知っておきたいカンボジアの話」開催 講師:米倉雪子</li> </ul>	6月・成人年齢18歳に引き下げる改正民法成立 12月・沖縄辺野古の埋め立て予定地に土砂投入
<b>2019年</b> 4月 7~8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の木講座「甘いバナナの苦い現実」映画とトーク開催 講師:石井正子</li> <li>・ネパール、ラオスの大洪水で支援地へ緊急支援実施</li> </ul>	4月・新年号「令和」となる 10月・消費税10%スタート、沖縄首里城火災 12月・アフガニスタンで銃撃され中村哲医師死亡
<b>2020年</b> 4~5月 8月 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言に伴い事務所業務停止</li> <li>・「多文化共生の地域づくり」オンライン連続トークイベント開催(2021年2月まで全4回)</li> <li>・地球の木講座「SDGs時代とコロナ禍の国際協力とは?」(オンライン)開催 講師:大橋正明</li> </ul>	1月・英国がEU離脱 2月・新型コロナウイルス世界各地に広がる 4月・新型コロナウイルスで1回目の緊急事態宣言
<b>2021年</b> 2月 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SDGsよこはまCITYサイドイベント」参加</li> <li>・「多文化共生の地域づくり」オンライン連続講座スタート</li> </ul>	1月・バイデン米大統領就任 2月・ミャンマーでクーデター(国軍が全権掌握) 7~8月・東京2020オリンピック・パラリンピック開催 8月・米軍アフガニスタンから撤退

# 地球の木自立支援プログラム変遷

( )内はパートナーNGO名称

年度	国名	フィリピン	ラオス	カンボジア	ネパール
1991		タタロン スラム社会環境改善 (TID)	カムアン県 【生活改善普及活動 (JVC)】		
1992					
1993			カムアン県 森林保全 (JVC)	農村開発 (JVC) 【植林・米銀行・豚銀行・家庭菜園・井戸掘り・ジェンダートレーニング・貯蓄】	
1994			ネグロス島 ファームロット計画 (JCNC)		
1995			保健・衛生・環境 プログラム (PRRM)	【森林管理利用権の確保・区分け・管理運営のルール作り】	
1996			タタロン・グローバル 教育 (TID)		
1997				チャイルドケア・センター (ほくぶ/るしな)	極西部識字教育 (なんぶ/SOARS)
1998			カムアン県 森林保全・複合農業 (JVC)		
1999			【共有林づくり・ジェンダー研修・自然農法】		極西部村人の自立 (SOARS)
2000		ネグロス島 ツプラン研修農場 (JCNC)		チャイルドケア・センター (るしな)	【女性中心の識字教育・小学校給与・裁縫教室・貯蓄トレーニング】
2001		【砂糖農園労働者の有機農業研修】	カムアン県 森林保全・複合農業 (JVC)	【子どもの自立支援】	
2002			【森林保全・複合農業・ジェンダー研修】		
2003					教育支援 (SOARS) 【NGOトレーニング・青少年グループ育成・農業トレーニング・コミュニティセンターと人材育成センターの建設】
2004		ネグロス島 レッツゴーファミリー (JCNC)	カムアン県 森林保全・複合農業 (JVC)		
2005		【モデル農家の農業基盤づくり】	【井戸掘り・稲の幼苗1本植え・米銀行・森林ボランティア育成】		
2006					
2007				職業訓練センター (VCAO)	
2008				チャイルドケア・センター (るしな)	【里親型支援】
2009					
2010			サワンナケート県 森林保全・複合農業 (JVC)		幸せ分かち合いムーブメント (SAGUN)
2011			【参加型土地利用計画(村の境界線確定など)・魚保護区設置・食料と安全な水の確保】	タクオ職業訓練センター (VCAO)	【図書室建設・奨学金・小学校教師支援・作文コンテスト・生活改善・地域情報紙発行・開発モデルづくり】
2012					
2013		JVC提供	サワンナケート県 森林保全・複合農業 (JVC)	アン村生産者支援	
2014			【自然資源管理・法律研修・食料と安全な水の確保・ジェンダー研修】		
2015				保護シェルター支援 (CWCC)	大地震緊急・復興支援 【必要物資供給、ヤギの飼育、大工・石工トレーニング、補助教室建設】
2016					
2017			サワンナケート県 土地と自然資源の持続的な利用・管理 (JVC)		
2018			【村の基礎データの調査・自然資源保護区設置・法律研修・農業技術研修】		
2019					
2020					
2021		JVC提供			

■IID: Initiatives for International Dialogue ■PRRM: フィリピン農村再建運動 ■JVC: 日本国際ボランティアセンター ■JCNC: 日本ネグロスキャンパーン委員会 (現APLA/あぶら) ■SOARS: Society for Action And Research for Sustainable Development ■SAGUN: サグン 参加型開発を進めるNGO ■VCAO: Vulnerable Children Assistance Organization ■るしな: るしな・こみゆにけーしょん・やほねしあ ■CWCC: Cambodia Women's Crisis Center

## お祝いメッセージを いただきました

### ～支援地や活動現場から～

#### SAGUN事務局長 マハント・バブー・マハルジャン

30年というのは、組織にとって非常に長い年月です。SAGUNはこれまで、政府、NGO、国際NGOなど様々な団体とパートナーシップを組んで住民主体のプログラムを行ってきましたが、地球の木は規模こそ小さいですが、最良のパートナーです。



地球の木と共に「幸せ分かち合いムーブメント」を推進してきた14年は、私たちにとってかけがえのない日々でした。私たちはお互いに学び合い、幸せも悲しみも分かち合ってきました。私たちにとって地球の木は、ドナーを超えた守護者であり、友人であり、ロールモデルです。ですから、私たちのパートナーシップが、ネパールにおける貧困、差別との闘い、そして良い統治、環境の持続可能性の確立に向けて、これからも末永く続くことを願っています。

#### SOARS元代表 ニルマラK.C.

極西部での教育支援から12年。支援は多くの変化をもたらしました。今では殆どの女性が読み書きでき、すべての子どもが学校に通っています。女性は貯蓄グループや協同組合に属し、識字教室卒業生の1割が地方行政に参加。輝くリーダーや社会起業家が大勢生まれ、暴力も減りました。



この変化は、人々が「プロジェクト」ではなく、「ミッション」としてボランティア精神で関わったため、この精神が今も村々に引き継がれています。丸谷さん、乳井さん、米林さんと一緒に極西部を訪れたことを思い出すと心が躍り、いつも前に進む勇気が出ます。信念、思いやり、献身、無私無欲な使命、私たちは多くを学びました。今、私があるのは皆さんのお陰です。あの、幸せで楽しい旅を共にしてくれた地球の木に感謝します。SOARS全員より愛を込めて、ニルマラ。

#### CWCC(カンボジア女性緊急救済センター) 事務局長 ポック パニヤービチエト

CWCCはジェンダーの平等を目指して活動しているローカルNGOです。私たちは性差別をなくすことが、平和や社会の発展、そして家庭の幸せに寄与すると考えています。被害を受けた女性や少女の保護・サポートと同時に、被害予防や被害者への法的な支援、社会の仕組みを変えるためのアドボカシー(提言)を行うことで、女性に対するあらゆる暴力を排除しようとしています。20年以上活動を続け、毎年およそ1,500人のDV、レイプ、人身売買の被害を受けた女性や少女たちの支援を行うようになりました。



2016年以降は地球の木から、保護シェルターの被害者たちの食糧、医療品、生活再建の支援を受け、被害者たちは暴力的な状況から抜け出し、生活を立て直すことができています。

地球の木と会員の皆さまにお礼を申し上げます。皆さまのサポートのおかげでCWCCは、性暴力を受けた女性たちの人生を変える社会的、法的支援を行っている団体だと、カンボジア全土で評価されるようになりました。

#### 日本国際ボランティアセンター(JVC)ラオス事務所 プロジェクトコーディネーター フンパン・センチャント



お元気でしょうか。皆さんの地域のコロナの状況はいかがですか。こちらサワナケート県の状況は厳しく、感染者が増加しています。地球の木設立以来、皆さんは様々な困難に直面し、また多くの成功も経験されてきたと思いますが、最も重要なのは、皆さんが世界の平和と環境を築いてきたことです。特にラオスでは、長い間諦めずに私たちを助け続けて下さっています。私が日本で長期の研修を受けた際もサポートして下さいました。皆さんとのよき思い出を忘れることはないでしょう。30周年にあたり、現地スタッフを代表して、地球の木のメンバー皆さんとご家族の成功、健康、長寿、そしてコロナからの安全を祈ります。この2年間、ラオスに足を運んでいただくことは叶いませんが、いつの日か再会することを願っています。

#### 日本国際ボランティアセンター(JVC)ラオス事務所 現地代表 岩田 健一郎



新型コロナウイルスの感染拡大や気候変動による災害の頻発など、ラオスでも日本においても、直面する問題が国境を超えて共通するようになってきています。このままでは私たちの暮らしが、地球がもたないのではという危機感のもと、こうした課題に取り組む私たちもまた、国という枠組みを超えて手を携えていくことがますます重要です。地球の木の皆様には、世界のつながりの認識を深め、実感する場をつくり続けていただくこと、そして一人一人が地球市民として、未来の世代に向けて豊かな自然や優れた生活文化を守り、暮らしのあり方を改善するための実践と協力を重ねられていくことを期待しています。活動のさらなる発展を祈念しつつ、これからも皆様とともに歩みを進めていくことを願っています。

#### 鎌倉女学院高等学校 国際学習担当教諭

このたびは設立30周年おめでとうございます。

「地球の木」の皆様には、本校で1年生を対象として実施している「国際セミナー」の中のワークショップを20年にわたって担当していただいています。実際に国際的な現場で活動されている方々とともに考えていくうちに、生徒は地球のあちこちでさまざまな問題が起きていることに気づき、それが自分たちと無関係ではないということや自分たちと同じような子供や女性も当事者であることを理解していきます。この体験をきっかけに生徒たちは国際社会に広く目を向けるようになり、卒業後国際関係の進路に進む生徒もいます。

今後も、より多くの人々の援助につながるような国内・国外での活動を期待しております。

#### 横浜市立平楽中学校 一同

この度は「地球の木」の創立30周年、誠にありがとうございます。

平楽中学校では、国際理解教育の学習を毎年行っており、「地球の木」にもご協力いただいております。遠い国の現状やそこで生活する人々の気持ちを生徒たちがいかに『自分ごと』として捉えることができるか、様々な工夫をしながら活動していただきました。「貿易ゲーム」や「マジカルバナナ」等、題名を聞くだけでもわくわくしてくるようなワークショップは特に子どもたちからも大人気でした。何が起るか予測のつかない世の中で、必要な情報をきちんと取り入れ、自分の意見を発信していくことの大切さを、生徒はもちろん、職員も学ばせていただきました。今後も、幅広く活躍されることを平楽中学校一同心より願っております。

※敬称略